

魂まつり（四季の内・夏）

三下りへ打水に心すがしき夕まぐれ 涼みの床の雪灯も 人待  
ち顔にちらほらと 灯影を流す鴨川や

本調子へ三條四條の橋の上を 振り分け髪も筒井筒 肩過ぎ越  
して七年八年 逢わでも夏ははや過ぎぬ へ三十六峰暮れはて  
て 打ち出す鐘は魂祭り 諸行無常 是正滅法 哀別離苦の  
響きにも やる方知らぬ胸の火は 見ぬ世は辛し人恋し

へ山の御名も如意ヶ嶽 そのふところに赤々と 無明を照ら  
す大文字

ニよりへとぼったともった大文字 一番先にとぼった 北にも  
西にもとぼった 月も今宵は遠慮がち 星も今宵は寝て候  
父さん母さん逢いに来る 道は暗かろ夜明けまで

へ山の送り火燃えてくれ